

機関番号：32402

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730278

研究課題名（和文） 流通・市場・交通の歴史発展モデル：ゲートウェーの実証的検証

研究課題名（英文） European Gateway and Hinterlands on the Move. Urban Logistics Model for Mapping Distribution, Transport and Market formations in History.

研究代表者

杉浦 未樹 (SUGIURA MIKI)

東京国際大学・経済学部・准教授

研究者番号：30438783

研究成果の概要（和文）：

本研究では、交通と流通の要となる都市の「ゲートウェー」機能が歴史的にいかに関与していったかを解明した。ネーデルランドの港湾都市を出発点に、イタリア・北欧・フランス都市を視野に入れた分析を行い、交通史と流通史のアプローチの統合を試み、同時に都市ネットワークの動的な形成を見る分析手段を提案した。

研究成果の概要（英文）：

This research project clarified the historical development of “Gateway function” of trade and transport centers. It contributed to the understanding of dynamic formation of Urban Logistic Networks and provided an integrated analysis approach for distribution and transport history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：西洋経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：ゲートウェー、流通、都市ネットワーク、オランダ、ヨーロッパ近世、交通、中心地理論、

1. 研究開始当初の背景

(1) ゲートウェー機能と交通史・流通史を統合した都市ネットワーク論の必要性

ゲートウェー機能とは、ある都市が、前面地から財・人・情報を受け取り、後背地へと流す機能である。中近世都市の流通機能では「ステープル」という、本来モノを一時的に都市に留め置く、ないし集結させる機能の方を中心的にみてきたが、都市の動的な発展をみる上では、モノを流す機能を主題におきかえる必要がある。

このとき、中近世ヨーロッパ史研究では、たとえば同時期の日本史研究に比べた場合、交通史と商業流通史を分けて検討する傾向がみられる。従って、両者をのアプローチの差を検討し、統合していく作業も必要である。

近世都市のネットワーク形成を明らかにする枠組みとして、20世紀前半に提案された、クリスターラーの中心地理論のヒエラルキー的な理解に対して、1970年代後半から、都市ネットワーク論が水平に広がっていき都市網の形成をみようとした。しかし、設定はかなりシンプルであり、とりわけ流通や交通上の発達の理解に欠かせない、後背地のありかたがそこには統合されていない。流通や交通のよりダイナミックな動きを反映したネットワーク論を構築していく必要性がある。

以上の三点の課題は、近世オランダにとどまるべきではなく、北西ヨーロッパ地域全体を網羅しながら考えていくべきものである。とりわけ都市ネットワークの進展度から考えると、ネーデルランド全域とイタリアを問題にしていくことが不可欠となる。

(2) ゲートウェー機能の担い手である中間商人(ミドルメン)の実態を明らかに

都市にとって前面地と交易である国際貿易に対し、後背地への交易、すなわち対内(国内交易)の研究はやや軽視されてきた。ゲートウェーを軸とすると、両者を視野にいれ、国際貿易から小売までの流通の連結を問題とすることができる。もっとも重要なのは後背地へ商品を分配する国内卸売商の成立となる。全国的な配給組織のありかたを問題に古典的な研究は、WesterfieldのMiddlemen in English Businessであるが、1915年にこの著作が出されて以降、大半の研究は小売か貿易のどちらかに絞っており、全国的な流通網はあまり問題とされてこなかった。とりわけ、イギリス以外のヨーロッパ大陸側の研究は、貿易と小売を峻別する傾向が強かった。

筆者は、課程博士論文をはじめとしたこれまでの研究で、中近世期に近世オランダの全国的な流通構造を明らかにし、その中でとりわけ後背地への流通を担った国内卸売商として、他の小売層とは明らかに区別がなされたワイン・コーパー(wijnkoper ワイン商, vintner 英)の役割に注目した。

今回のプロジェクトは、この研究を受けて、ワインコーパーを例として、中間商人の役割を詳細に明らかにすることである。まず、商人の資本形成、家族や結婚・相続の役割、なによりも商取引の実態を追求し、ゲートウェー機能の議論の発展へとつなげようとした。

2. 研究の目的

従って、研究の目的は以下のようになる。

第一に、16-19世紀を中心に、近世ネーデルランド都市から北欧、イタリアに都市の後背地との関係を探る。

第二に、その際にゲートウェー機能の発達とネットワーク形成の動的プロセスを明らかにするために、交通史と商業史を統合するアプローチとしてアーバン・ロジスティクス・アプローチを打ち立てることである。第三にとして、上に述べたようにゲートウェー機能の担い手である中間商人(ミドルメン)の実態をワイン商に着目して明らかにしていくことである。

3. 研究の方法

(1) 共同研究

第一の目的については、二人のイタリアとベルギー交通史家の共同研究者(イタリア・ヴェニス・カ・フォスカリ大学の Giovanni Favero 氏とベルギー・ブリュッセル自由 Michael Serruys 氏)らと作業し、中近世を視野に入れた分析方法を模索しながら、イタリア、フランス、ネーデルランド、フランス、北欧の広域にわたる研究者と相互交流をおこなってきた。三人の作業では流通史と交通史での概念のすり合わせを行い、理論の整理と統合、新アプローチを考えてきた。

5回のセッションのうち、2回は本科研の期間の前年の2008年にリスボンのヨーロッパ社会経済史会議 ESSHC, リヨンのヨーロッパ都市史会議 EAUHで行った。その間に、さらに三回のセッションを組み、同じ関心をもつペーパーを広く集め、その上で、2010年4月 ESSHC会議と、2010年9月 EAUHでセッションを開催した。

さらに、それらの参加者からの原稿を編集・改訂したのち、理論的枠組みを共同研究者間

で担当し、2011年1月にヴェニス、2011年4月、2012年3月に編集者のみで編集会議を一週間近く行った。

さらに現代的な視野とも関連づけ、ゲートウェーの消費者の創造性と題して、学際的な会議を香港大学において開催した。

(2) 個人研究

個人研究では、二つの方法で商人階層の分化とゲートウェーの発展とのつながりをさぐっていった。

一つは、後背地も入れた中で、マクロ的な視野で商業職種が全体でどのように展開し、関連し合っているのかを、中心都市・中小都市・農村という差をつけて、各州でみていくことにした。2004年の博士論文での調査を土台にし、小売比率などを考慮に加え、また交通網の展開と結びつけて商業職種の展開を調査することにした。

さらに都市ネットワークとしてホラント州を中心に考察していたが、フリースラントなど各州内の都市間関係が、ホラントとは異なることに着目し、その特色を抽出していくことにした。

一方、もうひとつはミクロ的な視野から、ワイン商の活動の実態に迫ることである。結婚契約・インヴェントリーの調査をもとに、ワイン商の様々な年齢段階での経営状態と、それに結婚によってもたらされた資本がどのように関わっているかをすでに論じていたが、これをさらに進め、均分相続以外の地域での商家経営を考察することにした。

また、ゲートウェーとは切り離せないネットワークとして、行商のネットワークを印刷物(本)および古着から検討していくことにした。そのために行商と都市の関わりについて比較史的な視点での検討を進めることにした。

(1) 史料収集と共同研究

ワイン商の取引実態を継続的に探る帳簿や1662年から十数年間にわたる、ワイン商 Isaac Pol の Almanac の存在を、ユトレヒト大学の Jeroen Salman 博士からご教示いただいた。この史料は、日記のようなもので日々の記録がわかる。

史料が未整理だったため、共同のプロジェクトをたちあげ、これを整理刊行していくことにした。

一方、アムステルダムのワイン・コーパーによる「ワインの創造」とでもいふべき、ワインのブレンディング・風味や甘みの調節・水足しについて造詣の深い、パリ大学の Anne Wegener Sleeswijk 博士と「ワイン商の創造性」と題して共同研究を提案し、史料面や作業面で継続的に交換を行った。

4. 研究成果

(1) 共同シンポジウムと共同論文集

2008年から始まった共同作業により、16本のネーデルランド・北欧・イタリア・フランス・アイルランドの都市ネットワークの形成を扱う論文をもとにした、共同論文集を編纂し、2014年には完成見込みである。

共同論文集といっても、書籍自体が一つのまとまりとして新しいアプローチの提言し、また拡大して中世から現在にいたるまでの流通と交通の発展段階をたどりながら都市ネットワークとのつながりをみえていけるようにしている。その際、交通史と商業流通史を統合する理論的枠組としてこれまであまり歴史研究にはつかわれてこなかったロジスティクス Urban Logistics Network を提言した。都市のネットワーク形成要因を、地理・政治(ガヴァナンス)・取引などのレイヤーにわけて検討したのち、ネットワークのありかたについては、ゲートウェー概念を軸に、ネットワークのモノとヒトの流れの粒度・間接・直接性・方向などを基準として叙述していく。また、商品ごとに異なるネットワークが形成されていくことも述べていく。

一方、ゲートウェー機能を果たす都市の消費者の創造性は、二つの論文集へと成果をまとめていくことが決定し、2013年に一つのほうの刊行が決まった。

(2) 史料集の編纂

Isaac Pol の Almanac 集の編纂は完成に近づいた。中身の具体的な検討分析はこれからであるが、この史料が、内容からも貴重なものであることがわかった。ワインコーパーの取引行動がわかるだけでなく、当時の移動状況を知るうえで、また食事や睡眠や消費行動などの日常的なありかたを知る上でも、興味深い史料であり、商人史だけでなく、交通史や社会史、文化史にも重要な貢献ができそうである。

(3) 個人研究

ワイン商の結婚契約を調べ家族を再構成し婚姻やワイン商にかかわった女性(妻・未亡人・娘)の役割を調べる研究をおこなっていたが、発表を繰り返すうちに、多方面からの手ごたえがあり、均分相続制度が経済制度の発展にもたらすさまざまな影響へと視野が広がってきた。経済史のなかでなかなか影響のはかりにくい、女性の財産運営について、ひとつのつながりができたと考える。また、結婚契約を商家経営のありかたへとつなげていく総合的な研究は、オランダについてはまだ行われておらず、これはこれ自体として、

さらにすすめ、成果を出していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. M.Sugiura, Specialization and the division of merchant functions in Amsterdam and its hinterland in the eighteenth century, in Robert Lee ed., *Port-Cities and their Hinterlands: Migration, Trade and Cultural Exchange from the early seventeenth-century to 1939*, (Forthcoming, Routledge)

2. M.Sugiura,

Das Heiratsmuster der *Wijnkopers* in Amsterdam 1660–1710. (The marriage patterns of wine merchants in Amsterdam)", in Mark Häberlein und Christof Jeggle (eds.), *Praktiken des Handels, Geschaefte und Soziale Beziehungen Europaeischer Kaufleute in Mittelalter und Frueher Neuzeit*, Irseer Schriften Neuer Folge Band 6, UVK Verlagsgesellschaft mbH, 2010. pp.407-436.

[学会発表] (計7件)

1. 2011年4月7日 合同沼地研究会、東京大学工学部建築学科伊藤毅研究室主催、研究発表「近世フリースラントにおける都市ネットワークの発達 レーワールデンの位置づけを中心に」、

2. "Theoretical Frameworks for Distribution of Gateways and Hinterlands" in Workshops "*Gateways and Hinterlands in Europe, 1400-1900*", Ca' Foscari University of Venice, Department of Management, 28-29th January 2011

3. 「近世アムステルダムにおける商取引の遂行 ゲートウェー都市の取引所・仲買人・分配商 をめぐって」 ユーラシアの近代と新しい世界史叙述 研究会、東京大学、2011年1月

4. "Transportation: a major player in the shaping of urban networks" Session Co-Organizer and Chair, at EAUH Ghent University, 2010 September

5. 「小売から見たヨーロッパ商業ネットワークの再編成—オランダにおける都市内店舗と行商ネットワークの再編成を中心に

—」ヨーロッパ史シンポジウム『1680年代から近世ヨーロッパを見る.ネットワークと政治・宗教・商業の構造転換』、東京大学、2009年12月

6. "Street Sellers and Street Markets of Early Modern Edo, Paper presented at the session "Street Sellers in the Early Modern World", with Shinya Kobayashi, also Session Co-Organizer, WEHC 2009 August

7. "Wine consumers' and distributors' creativity in 17th and 18th century Dutch Republic, Paper presented at Hong Kong University conference "Consumers, Marketplaces and Urban Creativity: Place-Bound and Global Dynamics of Value Transformation" also Conference Co-Organizer, HKU 2009 May

[図書] (計2件)

1. M. Sugiura, GFavero and M.Serruys eds., *Gateways and Hinterlands. Urban Logistics Network in the last Millennium* (forthcoming, 2014)

2. M.Sugiura, D.Wong eds, *Japanese Consumer Creativity in Global Perspective. User Innovations, Role Playing and Consumer Communities*, Routledge (forthcoming, 2013)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉浦 未樹 (SUGIURA MIKI)

東京国際大学・経済学部・准教授

研究者番号：30438783

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：